

ギフチョウ

Luehdorfia japonica

兵庫県：B

環境省：絶滅危惧Ⅱ類(VU)

種の概要

前翅長27～36mm程度。翅は前後翅ともに黄色と黒の縞模様で、後翅表面の亜外縁部には橙色斑を有する。丘陵地から山地に生息し、幼虫はヒメカンアオイ、ミヤコカンアオイなどのカンアオイ類を食べる。年1化性で、成虫は4月～5月に出現する。



写真提供：近藤伸一

国内分布

本州

県内分布記録

神戸市、宝塚市、川西市、三田市、猪名川町、明石市、加古川市、西脇市、三木市、小野市、加西市、加東市、多可町、姫路市、神河町、豊岡市、養父市、朝来市、香美町、新温泉町、丹波篠山市、丹波市

選定理由

人為性		特殊生息環境	学術性		
個体数激減	生息環境激変		分布が極限	分布の限界	希少
○	○		○		

特記事項

六甲山周辺は1940年代、明石周辺は1950年代に開発のために生息地が消滅。都市周辺は住宅地、道路建設などによる生息地の消滅や孤立化、二次林の常緑広葉樹の成長による低木層のブッシュ化などに伴う生息環境の消滅などが減少の要因と考えられ、但馬地域ではシカの食害で分布域が更に減少している。

保護上の留意点

加古川市北部では各種の調査、枝打ち、間伐などを実施。